

## 「沖縄におけるアジア・太平洋ユース科学交流フォーラム」

1. 目的：
  - (1) 沖縄とアジア・太平洋諸島地域のつながりを強める。
  - (2) 沖縄を「科学技術の国際的交流の中心」として発展させる。
  - (3) 沖縄の人的資源の発展を促進する。
  
2. テーマ：「21世紀におけるサンゴ礁、島国及びアジア・太平洋共同体の将来」  
学生とパネルメンバーによるプレゼンテーションやディスカッションを通じて、世界的な気候変動がサンゴ礁に与える影響、海洋酸性化、海水温の上昇、頻発する暴風雨、魚の乱獲、過疎化、観光産業への過度の依存等、アジア・太平洋地域の島国が今後50年間に直面する問題についてどのように対処していくかを考える。
  
3. プログラム (予定)：
  - 9月23日 (金) 沖縄着、オリエンテーション
  
  - 9月24日 (土)
    - 9:30~12:00 ポスター・セッション：学生によるプレゼンテーション「気候変動の影響を受けた地域での暮らし」
    - 14:00~17:00 パネルメンバーによるプレゼンテーション「21世紀における太平洋地域の島国がさらされている脅威」
    - 17:30~18:30 OIST キャンパスツアー
    - 20:30~22:00 意見交換会及び総括
  
  - 9月25日 (日)
    - 9:30~12:00 グループディスカッション
    - 13:00~15:00 発表 (グループディスカッションの成果を各グループから発表)
    - 15:00~16:00 休憩
    - 16:00~17:00 フォーラムの成果としての解決策の立案
    - 17:00~18:00 学生によるプレゼンテーションを基にパネルメンバーが作成した方針書の協議  
OIST 運営委員の尚博士 (琉球大学名誉教授) による閉会の御挨拶
  
  - 9月26日 (月) 沖縄発
  
4. 参加者： 学士課程の学生 (18~23歳) 36名  
(沖縄県内5名、その他国内6名 (内、外国人3名)、アジア・太平洋地域25名 (インドネシア、オーストラリア、サモア、ソロモン諸島、ニューカレドニア、台湾、トンガ、ハワイ、パプアニューギニア、パラオ、フィジー、フィリピン)  
パネルメンバー 8名 (OIST 2名、国外の大学・研究機関6名からなる生態学、サンゴ礁の生物学、持続可能開発分野の若手研究者)

## 5. 沖縄科学技術大学院大学について

沖縄科学技術大学院大学は、沖縄科学技術大学院大学学園法に基づき開学準備が進められている新しい大学院大学で、沖縄において世界最高水準の科学技術に関する教育研究を行い、沖縄の自立的発展と世界の科学技術の向上に寄与することを目的としています。現在までに、42の研究ユニット（研究スタッフ約200名）が発足し、神経科学、分子科学、数学・計算科学、環境科学の4分野において、学際的な研究活動を展開しています。また、国際ワークショップやコースの開催など、学生や若手研究者の育成にも力を入れており、これらの取組は国際的にも認知されています。平成23年3月、沖縄科学技術大学院大学学園法に基づき、文部科学大臣に対する設置等認可申請が行われ、文部科学省の審議会による審議を経て、本年11月に設置が予定されています。

### 【本件連絡先】

独立行政法人 沖縄科学技術研究基盤整備機構 総務グループ広報担当 名取 薫

電話（代表）098-966-8711（直通）098-966-2389 FAX: 098-966-2887

E-mail: kaoru.natori@oist.jp

国立大学法人 琉球大学 学術国際部長 門脇 英雄

電話:（代表）098-895-8600 FAX: 098-895-8185

E-mail: gkjbcho@to.jim.u-ryukyu.ac.jp